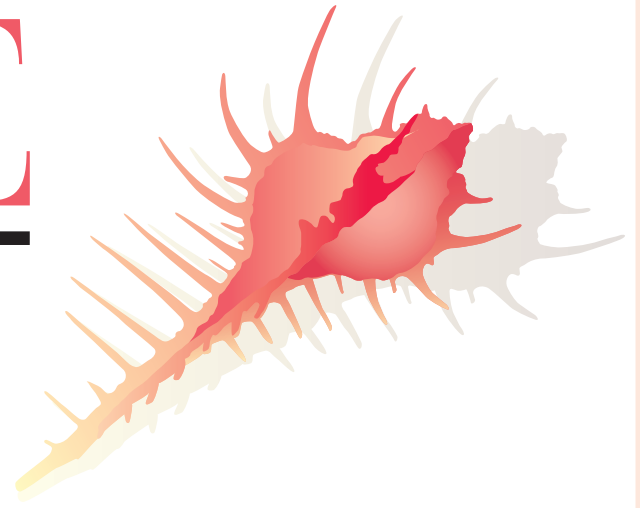
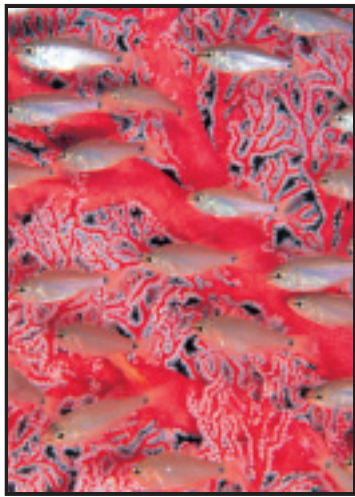


SCOPE

Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura



海中にゆらめく緋の扇



©IKUO NAKAMURA

海の中には、このまま地上に持ち帰りたいという衝動にかられるほどの、見事な造形物がたくさんある。写真のオオイソバナもそのひとつだ。大小さまざまな形のオオイソバナは、巨大なものでは2mほどもあり、岩盤にスックと立ち上がり、扇に似た形を広げていく。

一見、樹木のように見えるオオイソバナだが、実はサンゴたちと同じ、腔腸動物の仲間だ。2～3mmほどの白い触手は、流れてくる微小な動物性プランクトンを捕食している。

サンゴ礁に限らず海の中では、赤系統の色彩がもっとも早く色を失う。水の色に吸収されてしまうからだ。実際に海中で見るオオイソバナは、水深が増すにつれ、赤から紫、やがて黒へと変化していく。

オオイソバナの本来の色を再現するには、人工照明を当てるのが手取り早い。照射されたその部分だけが、「オオッ」と、思わず声を出してしまうほど、ひときわ鮮やかに浮かびあがる。周辺を泳ぐ小魚たちは、まるで小鳥のように優雅に行き交う。海の中にいることを忘れかけるほど、のどかな光景である。

Profile

中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。水中写真家。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家として活動。『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラパゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚礁海道』(アスペクト)など多くの著書・作品集がある。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。昨年からはデジタルカメラでも水中撮影を始めたという。21世紀最初の今年にはデジタルカメラによる写真展も開催する予定。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。いよいよ21世紀が幕を開けました。子供の頃に思い描いていた未来の世界、科学技術、それがどこまで実現するのかとわくわくします。

世紀が変わってFINDも心機一転、表紙では詩情豊かな海の写真をご紹介します。色鮮やかなサンゴですが、地球温暖化により世界のサンゴ礁の27%はすでに死滅。このままだと2030年には60%が姿を消すとか。21世紀にも美しい海を残していきたいですね。

(H.K)

FIND 2001年1月発行 Vol.19 No.1 通巻91号

発行 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス事業本部

FIND編集事務局

〒197-0833 東京都あきる野市洲上50番地

TEL 042-532-2169 FAX 042-532-2553

株式会社シーコーポレーション

印刷